



# 飯田市立病院ニュース

飯田市立病院・高松分院広報

編集・発行／飯田市立病院広報編集委員会 〒395-8502 長野県飯田市八幡町438番地  
TEL●飯田(0265)21-1255(代) FAX●飯田(0265)21-1266 http://www.imh.jp.

## 年頭所感

飯田市立病院長  
宮川 信



新年明けましておめでとうございます。平成17年として新たな年を迎えるにあたり、一言「あいさつ申し上げます」。

昨年は、異常気象と自然災害が日本列島を襲い、まさに「災」の漢字に代表される1年であったと感じております。幸いにも、当地方においては大きな人的被害に直結する災害ありませんでしたが、飯伊地域で唯一「災害拠点病院」としての機能を有する当院として、東海地震の発生などを想定する中、「基幹災害拠点病院」との連携による、広域的応援体制の重要性を再認識いたしております。

さて、新年にあたり病院

事業の方針を述べながら年頭の所感とさせていただきます。

飯田市立病院は、高松分院と業務を連携しつつ、自治体病院としての公共性と経済性を両立させることを基本に、次に掲げる具体的事業の展開と新たな課題に取り組みたいと考えております。

まず具体的事業としては、昨年取得した地域医療支援病院機能の充実強化を図り、開放型の病院として本格的運用を進めたいと考えております。次に、先進的に取り組んでいる電子カルテシステムについては、機能の二層の充実により事務の効率化を図りながら、質の高い医療の提供に努めます。また、新たな事業展開としては、厚労省が推進している「メデイカルフロンティア戦略」の一環として整備される「地域がん診療拠点病院」の機能分析を行いながら、地域差のない、質の高いがん医療の均てん化に寄与したいと考えております。同時に質の高いがん医療の提供に資する

ため、生理・代謝の面からの疾患検索と、腫瘍の部位・進展度診断の両面に優れている、PET検査のあり方や導入効果なども併せて研究します。

また、当面する課題としては、この2月に日本医療機能評価機構の認定更新に伴う、訪問審査が実施されます。この機能評価の更新認定により更に質の高い医療を提供できる体制が構築されるものと信じております。

飯田市立病院では、前述の公共性と企業性も配慮する中で、個々の目標や達成すべき課題を掲げ、評価しながら見直しを進めることで良質な医療に貢献し、その責務を果たしたいと考えております。



### 新潟中越地震の緊急医療援助隊活動

○援助隊の体験記録より

### 話題の広場より

- 全国糖尿病週間 飯伊地区行事
- 皆様の声にお応えします

(援助隊1班の出發式)



# 災害拠点病院 について

災害拠点病院は、阪神・淡路大震災で、医療活動に支障をきたしたことを教訓にして、「災害時における初期救急医療体制の充実強化」を実施するために指定病院の整備をするとしたものです。

長野県では、各医療圏ごとに10病院が指定（うち1病院については「基幹災害拠点病院」を兼ねています。）されており、災害時に多発する重篤患者の救命医療に対応できる機能を有するとともに、広域搬送への対応や医療救護チームの派遣、応急用資器材の貸し出しに対応するものとしています。飯田下伊那地域においては、飯田市立病院がこの指定を受けており、災害拠点病院機能を保持するため、定期的な訓練や関係機関との連絡調整などを行っています。

## 新潟県中越地震の被災地に 緊急医療援助隊派遣 ― 援助隊の体験記録より ―

### 災害医療現場の 貴重な体験

【医師 平栗 学】

11月8日から11月14日まで、新潟県中越地震の被災地に緊急医療援助隊として3班に分かれて行って来ました。地震発生よりすでに約3週間ということもあり、ある程度復旧されてきた段階での派遣でした。

派遣先は震度7が記録された川口町で、人口約5、700人の町に、全国から6チームの一般医療班と5チームの心のケアチームが入っており、仮設診療所での診療や巡回診療がされていました。我々は川口小学校の仮設診療所で診療をしてきました。これらのチー



(小学校に設置された仮設診療所案内)

ムは国際医療センターの統括の元ボランティア診療を行っていました。すでに町の2つの診療所が復旧し、普通診療ができるようになってきていましたので、一般診療はそれらの診療所にかかっていただけのように、縮小に向かっていました。疾患の内容も時間とともに変化し、その頃は不眠や風邪、便通異常などの内科的疾患が多く、仮設診療所を訪れる患者さんもかなり減った様子で1日に10人程度でした。2泊3日という短い滞在でしたが、普段の生活では学ぶことのできない、多くの事を学ぶことができました。被災地の方々には一日も早く復旧・復興がされ、安心して暮らせる日が来ることを心よりお祈り申し上げます。

### 同行スタッフのコメント

医療援助班として現地に赴いたわけですが、あらためて医療が頼りにされているのだなあと感じました。眠れないと不安そうに來られた患者さんが、当院医師の診察を受け、安心した表情で帰って行く光景。「お腹が痛い」と、のた打ち回っていた子供が、診察中に居眠りをしているという光景。医療スタッフの一言が、医師の一瞬间の接触が、患者を救うものと実感しました。



(無料診療の様子)

### 看護職としての 支援を通じて

【看護師 何原真弓】

今回の私たちの派遣は、地震発生から2週間を経過した時期です。この頃

から、避難所で不自由な生活を余儀なくされている被災者の中に、①ストマ管理の方②重症の慢性疾患の方③ストレスからの不眠等で精神的に不安定な方の存在が分かってきました。

多くの医療機関による細かい支援では困難なこのようなケースに対して、一定期間継続して派遣可能な医療体制で対応する意義は大きいと感じました。看護職としては、同一施設内及び他医療機関との連携で、被災者との信頼関係を築きながらの情報収集・支援が重要であると認識しました。



(被害を受けた家屋)



## 全国糖尿病週間 飯伊地区行事

全国糖尿病週間(11月8日から11月14日)に合わせ、飯伊糖尿病連絡会では11月7日飯田市立病院において、無料検診及び講演会を開催しました。

無料検診では、一般市民113人の方が参加し、尿検査・血糖値・体脂肪を測定後、栄養指導と医療相談を行いました。多くの方で会場は一杯になり、お待たせしご迷惑をお掛けしましたが、数值的に問題がある方を医療へ繋げることができました。また、講演会は、元飯田病院 須田成彦先生による「糖尿病、治療して防ごう合併症」と題して講演をしていただきました。こちらも会場に入りきらない状態で、大盛況でした。20代30代の方も参加され、糖尿病の関心の高さが伺えました。



糖尿病は一度なってしまうと治らない病気ですが、食生活・運動など日頃の健康管理で重度化させないように、糖尿病とうまく付き合う方法を考えるきっかけとなったようでした。

【飯伊糖尿病連絡会】



## 話題の広場



## みなさまの声にお応えします

当院では、外来・入院の患者さま、お見舞い等の皆さまから様々なご意見ご要望をいただいております。最近お寄せいただいたものの他、ご意見により現在運用されている事例などをご紹介します。今後ともより良い病院を目指し、改善に取り組んでまいります。

### <ご意見の内容>

エレベーターの床が汚れています。ゴミが落ちているというのではないですが、床材がしみだらけで、そのためエレベーター室内が暗く感じられ狭いこともあり圧迫感があります。どことなく不快な臭いもあります。狭い所は臭いがこもりがちですから、床材を布タイプでなく一般フロアと同じ樹脂タイプにしてはどうでしょうか。

(40代・女性)

### <改善の内容>

当院は開設以来十数年を経過し、施設の修繕は随時行っております。エレベーターの床については、ご指摘のとおり劣化、汚れが目立つため張替をしました。床材には、すべりにくく耐久性に優れ、防塵性、防臭性にも配慮した塩化ビニール樹脂を使用しました。また、床の色は白系としたため、エレベーター室内は以前より明るく感じられるようになっております。

【庶務課】

## 尊いご寄附をいただきました

昨年11月18日に、飯田市上郷に在住、北村輝子様より「快適な療養環境の整備に役立ててほしい」とのことで、ご自身の100号の大作日本画「コロセオの地下」をご寄附いただきました。

この作品は、北村様の代表的作品の一つで「青峰美術院展兵庫 県知事受賞」作品です。現在、1階の外来に展示され、和らぎと暖かみのある療養空間の演出に大きな貢献をいただいています。 【庶務課】



## 医療安全への取り組み

厚生労働省では平成13年度から11月25日を含む1週間を「医療安全推進週間」と定め、患者さまの安全を守るための医療関係者の共同行動の推進を図っています。高松分院・ゆうゆうにおいても11月22日から30日までを医療安全推進週間と定め、高松ギャラリーへ各部署からあげられた目標(標語)を展示しました。また、医療事故を防止するための職員研修会の様子等も展示し、あらためて医療安全について考え直し、医療事故やインシデントが発生しないよう取り組むこととしました。

【高松分院】



●シリーズ●

その4

## 職場紹介

### 【リハビリテーション科】

リハビリテーション科には、9人の理学療法士、4人の作業療法士、2人の言語聴覚療法士、2人の視能訓練士、2人の歯科衛生士と2人の助手の21名で仕事をしております。理学療法士・作業療法士・言語聴覚療法士は、病院の奥にあるリハビリテーション室で身心に障害のある方に対するリハビリテーションを実施しています。対象は、0歳のNICUを経た乳児から、100歳の老人まで様々な疾病の方がいらっしゃいます。午前中は外来患者、午後は入院患者を中心に治療しています。外来患者では、発達遅滞などの小児疾患の方と、外傷などの整形外科疾患の方が大勢おみえになります。入院患者では、関節置換術、骨折などの整形外科疾患の方、脳卒中などの神経内科・脳外科疾患の方、外科手術後の方など殆どの科より患者さんがみえます。特に急性期の病院として、発症直後における脳卒中の方達の基本的な動作能力の獲得を行い、回復期病院でリハビリする適切な基礎作りに努めています。

視能訓練士は、目に関する各種検査のほか、斜視や弱視の児の視能訓練を実施しています。歯科衛生士は、口腔外科の助手を務めるほか、口腔衛生に関する指導や、術後の管理に努めています。

様々な分野で、病気や障害を持った方が快適で適切な生活を送れるように御手伝いをしておりますので、家庭での生活や身体的なことで困った事があれば、気軽にご相談下さい。

(原田)



### 交差点に信号機設置

飯田市直立病院前の交差点に信号機が設置されました。以前より、不注意による事



故が多発しており、これは何とかしなければ重大事故につながるるとして、足掛け5年がかりでようやく設置にこぎつきました。夜には照明も灯り明るい交差点に生まれ変わりましたので、周辺の防犯面でも効果があるものと期待しております。

### 保険証類の提示をお忘れなく

月1回は、保険証・受給資格者証の提示をお願いいたします。

【医事課】

### かかりつけ医を持ちましょう

飯田市直立病院では「かかりつけ医」の先生方との医療連携を積極的に行っています。また、当院での専門的な外来診療や高度な検査・入院医療などが安全で効率的に実施できるよう、診療

また、病院周辺の道路はスピードを控えるために走行されますようお願い致します。

【施設担当】

に関する情報を地域の先生方に公開しています。初診の患者さま(新しい診療科を受診される場合)には、「かかりつけ医」の先生方からの「紹介状」をお持ちいただくことをおすすめしています。

【地域医療部】



(開業医の先生方に当院の医療情報を公開しています。)

### 新任医師の紹介

平成16年10月12日



眼科  
きょうすけ  
深井 教介  
平成15年卒業  
平成16年11月1日着任  
前勤務病院：  
信州大学医学部附属病院



耳鼻咽喉科  
ひろあき  
鈴木 宏明  
平成14年卒業  
平成16年10月1日着任  
前勤務病院：  
信州大学医学部附属病院

### 編集後記

度重なる台風上陸に中越地震と自然の猛威に見舞われた平成十六年でした。

当然のこととは言いながら病院として中越地震への医療支援に参加できたことは特筆すべき事柄でした。

災害拠点病院として備えを行いつつも、今年が平穏な一年でありますように。

【編集委員会 中村喜行】